

第 1 回 明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会
議事要旨

- 1 開催日時：平成 28 年 8 月 30 日（火）10:00～11:00
- 2 開催場所：明治大学黒川農場 第 1 階会議室
- 3 出席者 ：[会長] 針谷農場長
 [委員] 佐倉委員、藤原委員、山崎委員、市川委員、杉山委員、福井委員、
 向坂委員、柏井委員
 (欠席) 小清水委員、梅澤委員、草野委員
 (代理出席) 安藤委員（松原委員の代理）、荏澤委員（山田委員の代理）
 [事務局] 農産物等研究専門部会 農地課 松川課長、古山係長、小川主任
 地域活性化検討専門部会 企画課 井上課長、福島係長、山中係長
 里地里山保全利活用専門部会 みどりの協働推進課 池田係長
 コンサルタント（(株)UR リンケージ 牧野）

4 議事 ：

平成 28 年度の取り組みについて、各事務局より説明。

《各専門部会の取り組み》

【農産物等研究専門部会】

- ・今年度より、明治大学黒川農場小清水教授が部会長に就任した。
- ・第 1 回専門部会にて、「アスパラの『採りつきり栽培』の実施」と「殺虫剤農薬抵抗性に関する講習会」を追加して提案した。
- ・農 1 の「大学と農家の意見交換会」の開催については、農場と農業者の繁忙期が重なり、日程調整がつかず、実検しなかったため、今年度も引き続き時期を含め検討していく。
- ・農 2 の「アスパラガスの『採りつきり栽培』の実施」については、5 年から 10 年かけて収穫するアスパラを 1 年間育成して、2 年目に収穫して終える新たな栽培方法である。観光農園の新たな作物として期待できると考えている。
- ・農 3 の「殺虫剤農薬抵抗性に関する講習会」については、実践的ですがすぐに活用できる内容となるように調整を行うとともに、農 1 も含め、他の講習会や実習と同時開催も含めて検討してく予定である。
- ・農 4 「農産加工品に関する検討」については、対象を女性農業者に限らず、加工品に興味のある農業者の方として、意見交換会を行っていくこととした。
- ・農 5 に「黒川野菜・果物等の PR」については、昨年から黒川農場の収穫祭で黒川産の野菜、果物、たまご等を販売することを始め、今年度も継続して行う予定。

【地域活性化検討専門部会】

- ・地1、地2の「サインの検討・試行」「散策マップの検討・試行」については、昨年度同様、屋外アート展示「サトヤマアートサンポ」の中で試行していきたい。
- ・地3の「里山景観づくりの検討・試行」については、種蒔き、開花の時期など含め地元の方と相談しながら検討していきたい。
- ・地4「HP等によるPR」については、麻生区のホームページに「農と環境を活かしたまちづくり」のページを作っており、適宜イベント情報を掲載して周知を図っている。
- ・地5「トマト・ブルーベリー収穫体験」については、7月30日に実施し、参加者には収穫した作物を調理した写真をツイッターで投稿し、黒川産の野菜の魅力を発信してもらっている。また「じゃがいもの収穫体験」については他にも同様のイベントが各所にあるので、差別化も含めて検討を行っていく。
- ・地6「竹炭シンポジウム」については、9月14日に黒川農場にて実施予定。開催にあたり、地域活性化検討専門部会員の皆様には、竹炭制作用の竹刈りに御協力いただいた。各種報道機関にも取り上げられており、参加予定者は順調に集まっている。
- ・地7「菜の花プロジェクト」は今年度も成果として収穫祭でスイーツなどの試食や販売を行う予定。
- ・地8「サトヤマアートサンポ」については、昨年度と同様に和光大学表現学部と連携して2週間程度、農地に作品を展示予定。

【里地里山保全利活用専門部会】

- ・今年度より、佐倉教授が部会長に就任した。
- ・里1「竹あんどんづくり」は昨年度とほぼ同じ内容で、黒川竹行燈の会と連携しながら実施予定。地元小学生を対象に、収穫祭当日午前中に実施する。
- ・里2「里山保全活動体験」も昨年度と同様に実施する予定。地元農業者のご協力を得ながら、実施場所等を検討していく。
- ・報告事項として、直接この協議会とは関係しないが、町田市で活動している芸術家の団体が黒川地域における美術展示を予定しており、地域活性化検討専門部会のアート展示とも連携しながら実施していく予定である。

《主な意見》

①農産加工品に関する検討について

- ・意見交換会の具体的な日程は決まっているのか、
- ・9月に予定しているが、日程調整はこれからとなっている。(事務局)

②殺虫剤農薬抵抗性に関する講習会について

- ・どれくらいの人数を見込んでいるのか。大学生などにも声をかけてはどうか。

- ・できるだけ多くの方に参加いただけるよう、生産支部のイベントと合わせての開催を考えている。明治大学関係者、地元農業者、関係者含めて 30～50 人を見込んでいる。（事務局）
- ・農薬を使うのは主に葉物だが、無農薬で農業をやっている人や根菜類を出荷している人は薬品には興味がないだろう。

③モウソウチクについて

- ・今、黒川だけでなく全国的に困っているのは竹で、不要なものは切りたいのだが、5月の連休後に出てきて、5月後半になると、全に成長した竹になってしまう。
- ・モウソウチクは全国で猛威を振るっている。
- ・町内会でも竹行燈の会の活動を支援している。

④大学と農家の意見交換会について

- ・意見交換会はこれまでに開いたことがあるのか。はじめての取り組みか。
- ・農場開場時には開催されていたと聞いている。地元の農家が農場に来る機会があまりないので、どんな先生がいて、どのような研究をしているのかを見学しながら意見交換ができるとよいと思っている（事務局）。
- ・大学と農家の繁忙期を考慮した日程調整が課題である。

⑤情報発信について

- ・神奈川県ではホームページやフェイスブックで「かながわの里地里山」のサイトで、県内全域の里地里山に関する情報を発信しているので、活用して欲しい。

《今後の予定》

- ・今後は各専門部会を中心に事業を進め、年度末に各専門部会の報告を受ける形で第2回目の協議会を開催する予定。